

JP052 迫川 (はさまがわ)

宮城県：栗原市

位置	N 38° 46′ E 141° 80′
----	----------------------

面積	10ha
----	------

環境構成【河川／砂礫／樹林／広葉樹林・針葉樹林】

北上川の支川。

宮城県北部の水田地帯を流れる河川は、河床勾配が小さく比較的緩やかであることが多い。川岸からすぐにヤナギ類の河畔林が成立し広い河原はあまり見られない。

迫川の中流、栗原市若柳や栗原市佐沼などの市街地を流れる部分は、早くから河川改修整備が行われたこともあり小礫や砂が堆積する河原が形成された。若柳や佐沼の市街地を離れると集落が堤防に沿って細長く続く水田地帯になる。

若柳より下流の流域は河川改修によって流路と平坦に整地された高水敷に分けられ、それ以前は畑や水

田として利用されていた高水敷は乾性草地になっている所が多く、流路に沿って形成される湿性の草地は少なく河畔林の成育もおおむね抑えられている。



写真：本田敏夫

選定理由

A4i	コハクチョウ
-----	--------

保護指定

法的な担保がない、もしくはわずか（10パーセント未満）である

保全への脅威

- ・洪水による堤防の決壊、それに伴う河川環境の改変と工事による直接の影響。

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化：減っている

- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有

＜調査データの入手方法＞

環境省ガンカモ一斉調査結果

- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化がある：2008 年から県の指導により、飛来するハクチョウ類への給餌は行われていない。最大で 500 羽位のハクチョウ類が夜間のねぐらとして利用し、そのおよそ 80% がコハクチョウである。ただし、ねぐらに利用するかしないか、その飛来数は日によって変動が大きく、全く見られない日もある。
- ・ IBA 選定基準種の生息環境：良好（全域、もしくは 90%以上が最適の状態）

保全活動

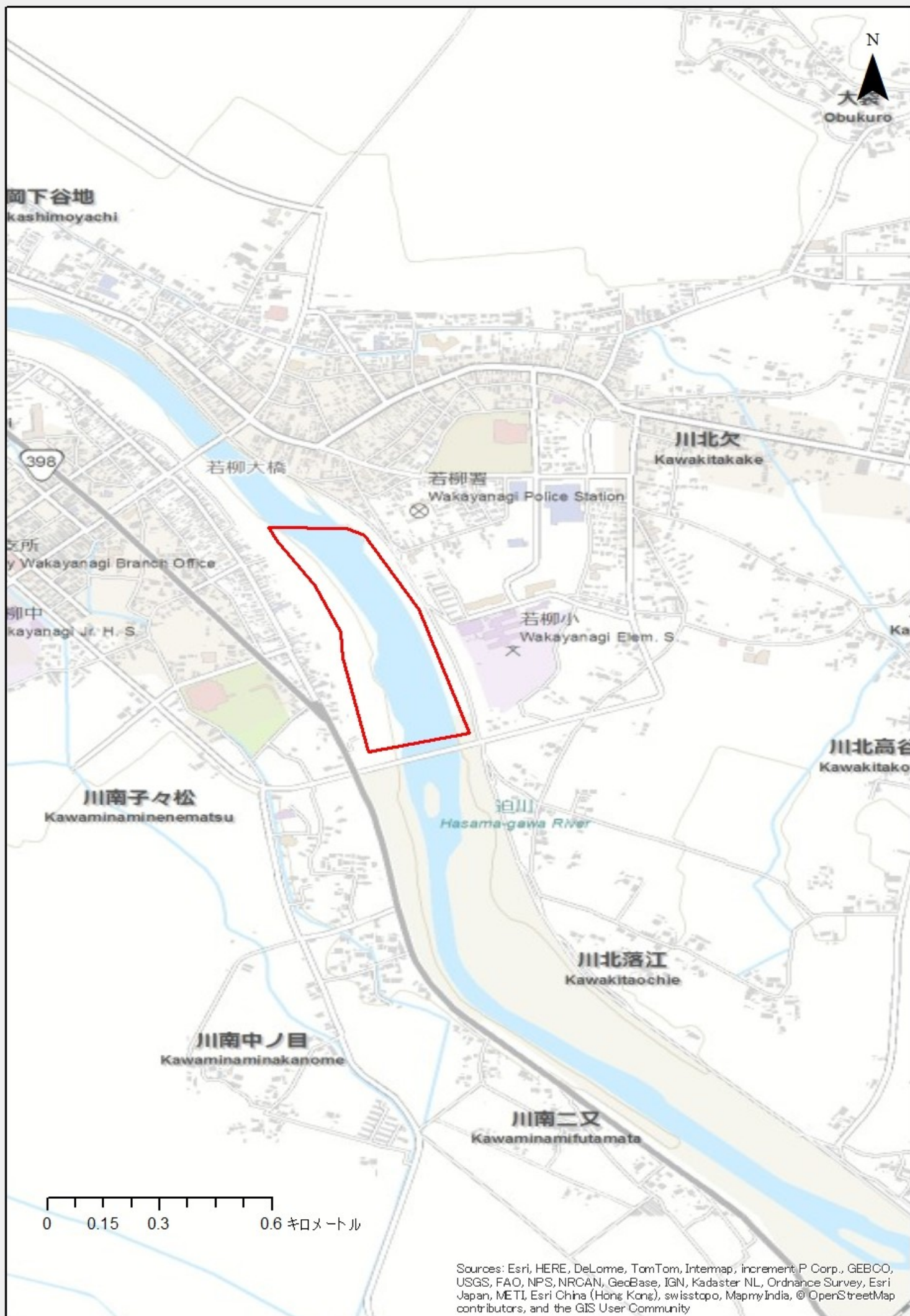
特になし

見られる鳥

留鳥	カルガモ、トビ、ノスリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ホオジロ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
夏鳥	イカルチドリ、カッコウ、イソシギ、ツバメ
冬鳥	カイツブリ、オオハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、オナガガモ、ユリカモメ、ツグミ、カシラダカ、ベニマシコ

関連団体・自治体・施設等

- ・ 日本野鳥の会 宮城県支部



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeBCO, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapnyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community